

「求む新鮮力―道内大学アメフト部の新勸作戦」⑤北星学園大

ヨサコイに負けるな

「北星はヨサコイサークルやラグロス部が目立っている。おしゃれな感じが受けているのかも。アメフトは、これらよりも目立たないとー」。北星学園大アメリカンフットボール部の新入生勧誘リーダーの佐藤聡太君（2年）が決意を口にした。

1977年創部で1部常連校の北星学園大だが、今年はかつてない部員不足に直面している。7人の先輩が抜けた新チームは、選手が4年生2人、3年生4人、2年生5人の計11人、スタッフが7人。選手11人では試合で全員が攻守兼任になる。「リャンメン（両面）を解消したい」というのが切実な希望だ。人気部活やサークルに集まりがちな新入生の目を男のスポーツに向けさせようと、4月6日の入学式直後から早速、懸命の勧誘作戦が始まった。

まずは新入生歓迎会を銘打ってミニゲーム大会を2回開いた。合わせて30人ほどの新入生が集まり、アメフト部員と一緒に「NGワードゲーム」などを楽しんだ。佐藤リーダーは「インスタグラムで告知した。新入生同士の仲間作りにもなったようだ」と言う。10日からは履修相談会も開いた。大学の教室を借りて放課後に3回開催。部員が学部、学科ごとに分かれ、訪れた新入生にマンツーマンで履修のルールやお勧め授業を伝授した。「単位の取りやすさや講義のおもしろさなどを説明した」と佐藤リーダー。3日間で新入生50人ほどが詰めかけ「行列ができた部員もいた」という。相談会がきっかけで2人が入部を決めた。

アメフト部ならではのタッチフット体験会も2回開いた。初回には11人の新入生が集まるなど反応は上々で、1人が入部を決めた。昼休みのビラ配りも力を入れた。アメフトの魅力を紹介し、練習見学会や体験会などを告知した。部のツイッターやインスタグラムのQRコードも印刷した力作だ。そして声かけ。「同じ学科だから、困ったことがあれば何でも相談して」と、大学生活の先輩としてコミュニケーションづくりに力を入れた。「アメフト部の雰囲気や部員の人柄を知ってほしい」との願いからだ。

コロナ禍に翻弄された昨年は、1年生に直接接触する勧誘はできなかった。今年は基本的に大学からの規制はなく、部員の熱意をダイレクトにぶつけられる。佐藤リーダーは「連休明けの5月も勧誘に力を入れる。春のオープン戦は札幌学院大との合同チームになるが、秋の本番に向けて仲間を増やしたい」と力を込めた。



北星学園大のユニホームを着て誇らしげな3人の新入部員